

☆自分で判断し行動する

評議委員会で後期の学校目標を決めてくれました。先日、生徒玄関に掲示されました。大きくてきれいで、とても立派なものに仕上がっています。

ところが、ある時、「行動」の文字の部分がはずされていました。「どうしたのかな」と気になっていたのですが、今朝（11/24）、数名の評議委員さんが掲示してくれていました。

比べてみれば、一目瞭然（いちもくりょうぜん）です。「行動」の部分には虹がかかっていて、文字もきれいに縁（ふち）どられています。皆さんも目にしていると思いますが、とても美しく仕上がっています。

さて、わざわざ一度貼ったものをはがしてまで、なぜ、もうひと手間かけたのでしょうか。

私は理由を聞いていません。皆さんも考えてみてください。評議委員の思いが、きっと、この部分に込められているはず。その真意を想像してみるのも良い勉強です。



☆(6個+8個)×3階分=42個

以前、学校だより（No. 16）で保健委員会が各階の流しに掲示してくれたポスターを紹介しました。「水道の蛇口が上を向いているのを見たら、下向きに直そう」というものです。あれ以来、皆さんの授業の姿を見に行くたびに、気にして蛇口の様子も見ています。

1階から3階まで、流しはそれぞれ2か所ずつあります。西側の流しには蛇口が6個、東側の流しには蛇口が8個ついています。つまり、上の見出しのとおり、合計で42個の蛇口があるのです。

さて、今までに42個の蛇口がすべて下を向いていた日がどのくらいあったでしょう？

実は、蛇口が全部下を向いていたのを、私はまだ一度も見たことがありません。ぐるーっと校舎を回って、途中まで蛇口がみんな下を向いていた時などは、「おっ！今日はパーフェクトかな？」と期待してみるのですが、残念ながら、毎回1つ2つは上を向いています。

ところで、1年生が、まだ学校に慣れていなかった頃は「朝のあいさつの声が小さいな」と思っていたのですが、今は、1年生が一番大きな声を出してくれています。全校生徒で行う校歌熱唱も見事です。あいさつや校歌では、皆さんの素晴らしい姿が見られるようになりました。

下駄箱の靴をきちんと奥まで入れること、カバンのふたを閉めて、ロッカーにきれいに揃（そろ）えること、体育着をきちんとたたんで机や床の上に置くこと、そして、水道の蛇口を下に向けること。そうすることがなぜ大切なことなのでしょう？

ちょっと考えてみてください。



☆世界人権デー

来月の12月10日は世界人権デーです。

世界人権宣言が、1948年(昭和23年)12月10日の第3回国際連合総会で採択されたことを記念して、1950年(昭和25年)の第5回国際連合総会において、毎年12月10日に記念行事を行うことが決議されました。



日本では、この日を含む直前の1週間(4日から10日まで)が「人権週間」に指定されています。

世界人権宣言の第1条には、次のように書かれています。

「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。」

ここで大切なことは、人間には「理性と良心」があるということです。「困っているあの人を助けよう」とか「こういうことをしてはいけないな」などと考えることができる心を持つているということが前提にあります。

また、第2条の第1項には、次のように書かれています。

「すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。」

つまり、人種や肌の色や男女の違い、話す言葉や生まれたところ、会社の社長とかお金持ちかそうでないか、などに関係なく、みんなが自由で平等であるのだ、ということです。

学校に当てはめれば、みんなが安心して学校生活を送れることが「人権を大切にすること」につながるのでしょうか。

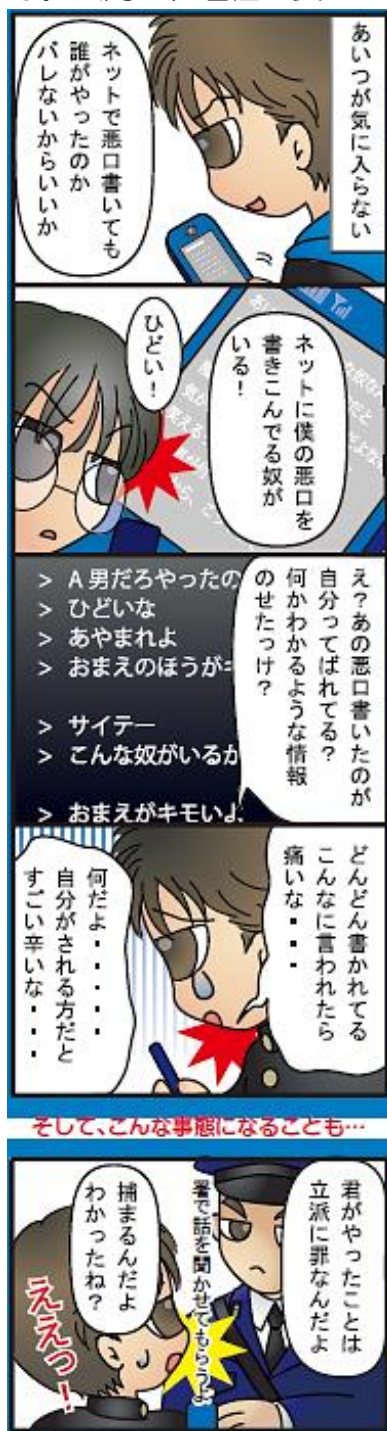
平成25年6月28日に、文部科学省より「いじめ防止対策推進法」が公布されました。第1条から第35条まであり、皆さんの人権を守る大切な法律です。

その第2条に「いじめの定義」が次のように書かれています。

『「いじめ」とは、児童等に対して他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう』(抜粋)

SNS等、直接、本人を目の前にして行われなくても、「いじめ」に含まれること、そして、受けた本人が苦痛を感じているならば、「悪気(わるぎ)はなかった」とか「そんなに気にするとは思わなかった」「冗談だった」というのは通用しないということです。

いずれにしても、「これをやったら、相手はどう思うだろう」「こんなことを言ったら、嫌な思いをするかな」など、いつも「人の気持ちを考える心」があれば、世の中の「いじめ」は無くなるのではないかと思います。



(文部科学省ホームページより)